

交通需要抑制に向けた 取組について

東京都

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

1. 取組の目標と準備

1 TDMの必要性と目標

- ・大会時に何も対策を行わないと、大会関係車両や観客の交通需要の影響により、道路、鉄道共に混雑が深刻化

(目標)

- ・道路交通は休日並みの交通環境を目指す
- ・鉄道は現在と同程度のサービスレベルを目指す

道路交通では、平日の15%程度交通量減（休日並み）の良好な交通環境の実現を目指す。このため、継続的に一般交通を抑制し交通量全体を大会前の10%程度減とするとともに、部分的に更なる分散・抑制を図る。

公共交通（鉄道）は、局所的な混雑への対応などにより、現状と同程度の安全で円滑な運行状況を目指す。

2 TDMの実効性を高めるための準備

①経済界と一体となった取組

- ・大会時の混雑を想定した大会開催中及び前後期間の行動計画づくり
- ・働き方改革に関連した既存の取組の拡大

②スポーツ大会・コンサート・花火大会等の機会を捉えたデータ検証

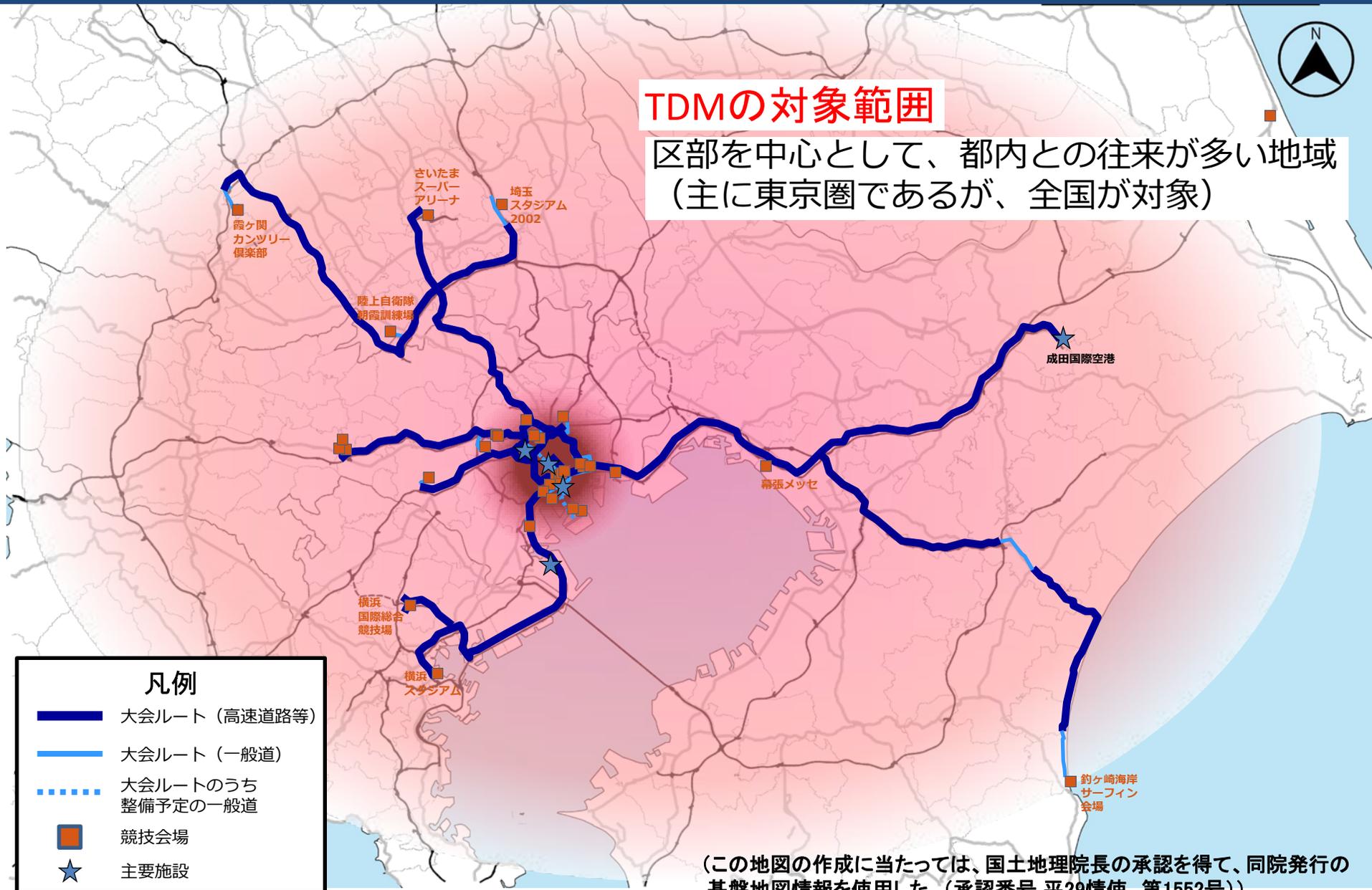
2. 交通需要マネジメントへの重点的な取組が必要な期間

- ・ TDMは大会期間中、特に平日において重点的な取組が必要

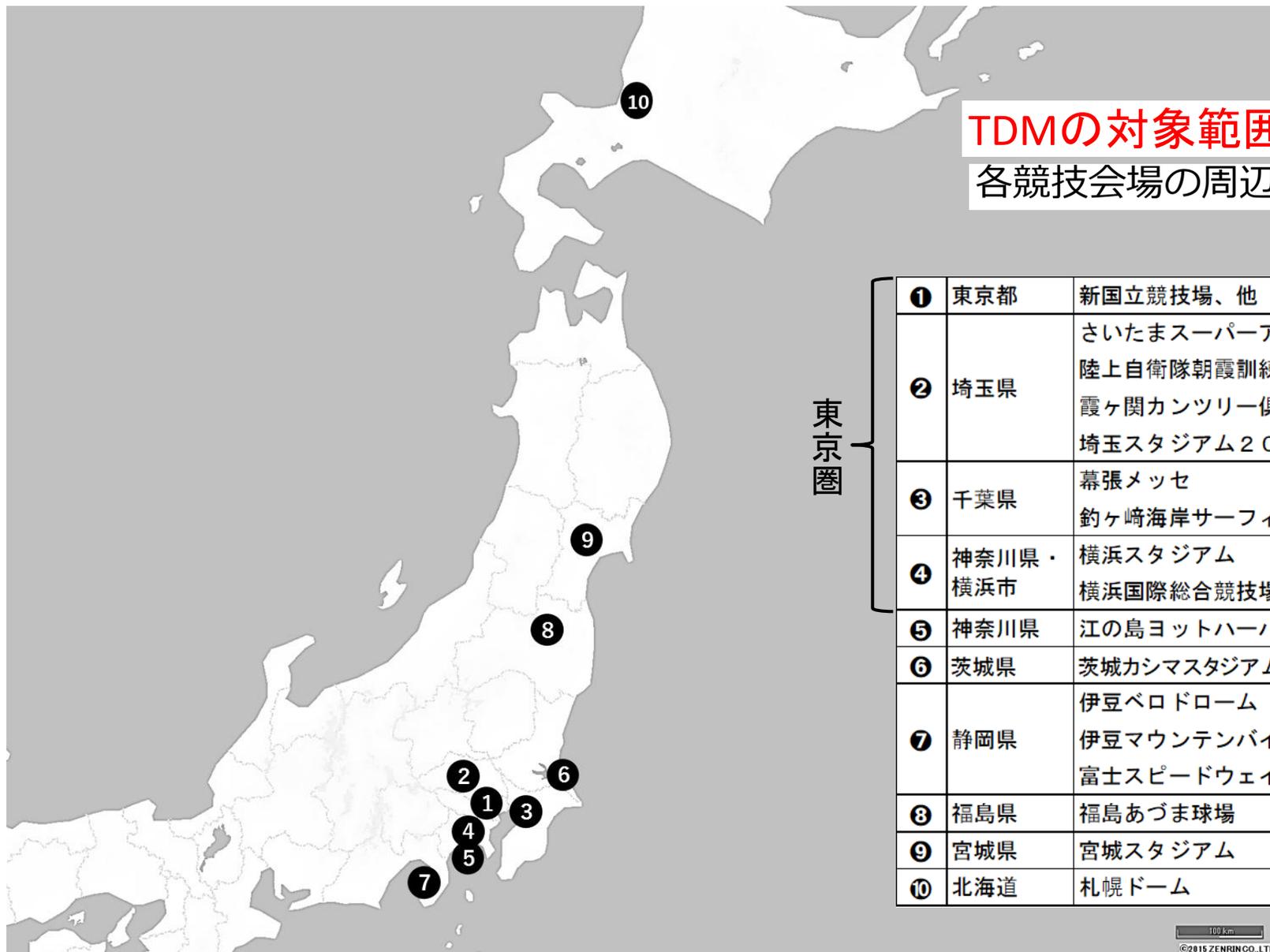
日	月	火	水	木	金	土
7/19	20 海の日	21	22	23	24 リトミック 開会式	25
26	27	28	29	30	31	8/1
2	3	4	5	6	7	8
9 リトミック 閉会式	10	11 山の日	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25 ハートリトミック 開会式	26	27	28	29
30	31	9/1	2	3	4	5
6 ハートリトミック 閉会式	7	8	9	10	11	12

 重点的な取組が必要な期間

3. 主に協力いただきたい範囲(東京圏)



3. 主に協力いただきたい範囲(全国)



4. 今夏から協力いただきたい事柄

【取組】

1 機運の醸成

- ・ 2020大会を支える輸送は重要であり、大会運営側だけではなく、企業や市民の皆様と共に取り組んでいく機運を醸成したい

2 取組の準備(18年6月)

- ・ 交通需要抑制の実現に向け、内容について経済界と具体的にご相談したい
- ・ 実務者レベルのテーブルを用意。取組のフロントランナーとなる参加社を求む

3 取組の展開(18年7月以降)

- ・ 2の成果をもとに、2020大会に向けたTDM推進の枠組みを構築する。各団体から関係者に、取組への参画の呼びかけを頂きたい

4. 今夏から協力いただきたい事柄

【各企業内での準備】

◇ 夏期休暇制度、ボランティア休暇制度の導入

- ・ 交通需要抑制には、計画的な休暇の取得が有効
- ・ 個人の協力を得るには雇用主の理解が必要
- ・ 2020大会のボランティアの募集は今夏から年内いっぱい

◇ テレワーク・時差出勤制度の導入と実践

- ・ 「テレワーク・デイズ」や「時差ビズ」などへのエントリー

◇ 大会時を想定した各企業の行動計画づくり

- ・ 物流の確保や工夫に向けた、荷主や個人（e-コマース）の理解と協力が必要